

(様式1)

令和5年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

(1) 学校教育目標	(1) 心身ともに健全でたくましく、将来の目標に向かって努力できる生徒を育成する。 (2) 社会の秩序を守り、他者への思いやりを忘れず、自己の責任を果たそうとする生徒を育成する。 (3) 郷土に誇りを持ち、主体的に未来を切り拓くことができる生徒を育成する。	学校整理番号	23
(2) 現状と課題	地元中学校の学力上位の生徒は市部の高校や私立高校に進学する。さらに周辺地域中学校の生徒数が年々減少しており、定員に満たない状況が続いているが、地元中学校からの入学者は微増している。本校生徒は町主催の行事やボランティア活動に積極的に参加したり、地元商工会等と連携し地域活性化の協議をしたり、地域との関係は良好である。SNSの使用も含めて相手のことを考えた言動ができること、多様な学力の生徒がいる中で基礎学力を定着させること、生徒一人一人が希望する進路を実現することが課題である。	学校名	青森県立野辺地高等学校
(3) 重点目標	1 1 学習指導・研修の充実→「師弟同行」	の課程	校舎
	2 2 生徒指導・教育相談の充実→「掃除と挨拶、5分前」	自己評価実施日	令和6年1月23日(火)
	3 3 キャリア教育・健康教育の充実→「22世紀まで生き抜く力」	学校関係者評価実施日	令和6年2月14日(水)
	4 4 働き方改革の推進と非遵行為の根絶→「魅力的な教職員」	(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成	学校関係者評価には学校評議員会を設けている。 なお学校評議員5名の構成は以下のとおりである。 教育関係者から1名 地域関係機関から2名 本校同窓会から1名 本校PTAから1名
(4) 結果の公表	保護者及び職員による学校評価アンケートは学校HPで公開している。		

自 己 評 価				学 校 関 係 者 評 価		
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	(10) 次年度への課題と改善策
1	学習指導・研修の充実	①生徒一人一人の可能性を引き出す教育活動の実践、生徒が分かる授業のための教材の精選とICTの活用及び教材研究を行い、資格取得等を積極的に推進することにより、学習に対する興味・関心を高める。	・授業アンケート等を活用しながら生徒の実態を把握し、「何ができるようになったかを生徒が認識できる授業」を展開した。 ・ICTを活用した授業実践やユニバーサルデザインの視点に立った授業の校内研修を実施し、教職員の指導力・資質の向上に努めた。	B	・学力の向上に努めながら、各種種々の受検者も増えている。生徒一人ひとりを把握して指導している。 ・図書館の利用者数を増やす取り組みをして欲しい。	・今後も授業アンケートを活用しながら、生徒の実態を把握し、ユニバーサルデザインを取り入れ、ICTを活用し生徒が何ができるようになったかを認識できる授業を実施していく。 ・図書室に学習スペースを設置するなど、生徒が利用しやすい環境づくりをする。
2	生徒指導・教育相談の充実	①社会の一員として、適切な生活態度を身につけさせるとともに、多様な個性との触れ合いから、他者を認め、思いやる豊かな心を育てる。 ②様々な問題や悩みを抱える生徒の早期発見と個々の生徒の状況に応じた適切な指導や支援が行えるよう、教育相談委員会を中核とした組織的な対応に努める。	・挨拶、清掃、5分前行動、正しい服装を奨励し、その必要性を理解させ、主体的に実践できるように指導した。 ・生徒会の活動目標である「過ごしやすい学校づくり」「思いやりのある行動」と連携して指導することで、安全で安心な学校づくりの推進に効果的に取り組むことができた。 ・初期段階において、教育相談委員会を機能させ、外部関係機関との連携を図ることで、重症化の防止に努めている。	B	・容儀指導が厳しいという意見が保護者からあがっていたが、社会人になるとルールを守ることが大切になるので、生徒指導を通して今後とも容儀や言葉遣いなどの指導を継続して欲しい。	・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなど外部の関係機関との連携を図って、個々の生徒に応じた適切な支援体制を作っていく。 ・生徒が安全・安心に学校生活を送れる教育環境を今後も継続できるように、生徒会活動と連携して指導していく。
3	キャリア教育・健康教育の充実	①職業体験、学校見学等、校外での学びも積極的に活用し、生徒が社会とのつながりを意識して自らを成長させ、進路を切り開けるよう支援する。 ②自他の命を大切にし、生涯を通じて心身の健康の保持増進に努める能力と態度を育成する。	・各学年でハローワークやジョブカフェのガイダンス、インターンシップを活用して、進路に対する意識付けの機会とすることができた。 ・健康診断の結果、健康状態に課題を抱える生徒全員に個別の保健指導と健康相談を行い、各自の健康増進についての意識を向上させるよう努めた。さらに保健だよりや学校生活の様々な場面で全校生徒へ声かけを行った。	B	・今年度初めて実施した「野高98 Cafe」など、地域との関わりを大切にしたい行事を実施して欲しい。 ・学食を運営するのが難しいと思うが、生徒にバランスの取れた昼食を提供できるように工夫して欲しい。 ・週1回でもお弁当のようなものを提供できる場所がないかなど検討しても良いのではないかと。	・進路体験発表会を継続して実施し、生徒が自らを成長させ、進路切り開いていけるように支援していく。 ・健康面で課題を抱える生徒に対して、今後も面談を実施していく。 ・バランスのとれた昼食について、何ができるか検討していく。
4	働き方改革の推進と非遵行為の根絶	①職員がワークライフバランスを見直し、人間性や創造性を高め、生徒たちに効果的な教育活動を行うことができるようにする。 ②教育公務員としての使命と責任、そして誇りを常に意識し、法令遵守を徹底する。	・イクボス宣言や働き方改革宣言などのポスターを掲示するなど、教職員に体感を取得しやすい環境づくりに努めた。 ・職員会議等で、リフレットを用いるなどして法令遵守や規範意識の向上を図るようになった。	B	・特定の教員に負担がかからないよう人員配置や改革を含め、働き方改革を推進して欲しい。	・一人一人の教職員に対し、部活動等の課外活動従事時間を含む業務の見直しにより仕事量の軽減を行った上で、検査日の午後や長期休業等には積極的に年休取得を奨励することでリフレッシュを図る。 ・引き続き、「服務規律」に関する校内研修に取り組んでいく。

(11) 総括 少人数教育を生かし、「分かる授業」を実践し、生徒の学力向上と意識の高揚を図ることに取り組んできた。3学年では成果発表会を実施し、地域活性化に向けた生徒のプレゼンテーションを地域の方々にも披露することができた。文化祭や耐久登山など学校行事を通して、生徒一人ひとりが主役となる教育活動を実施した。教職員においては、指導力を高めるための校内研修を行うとともに、法令遵守や規範意識の向上に努めた。